

基本方針4 スポーツによる共生社会の実現と地域活性化の推進

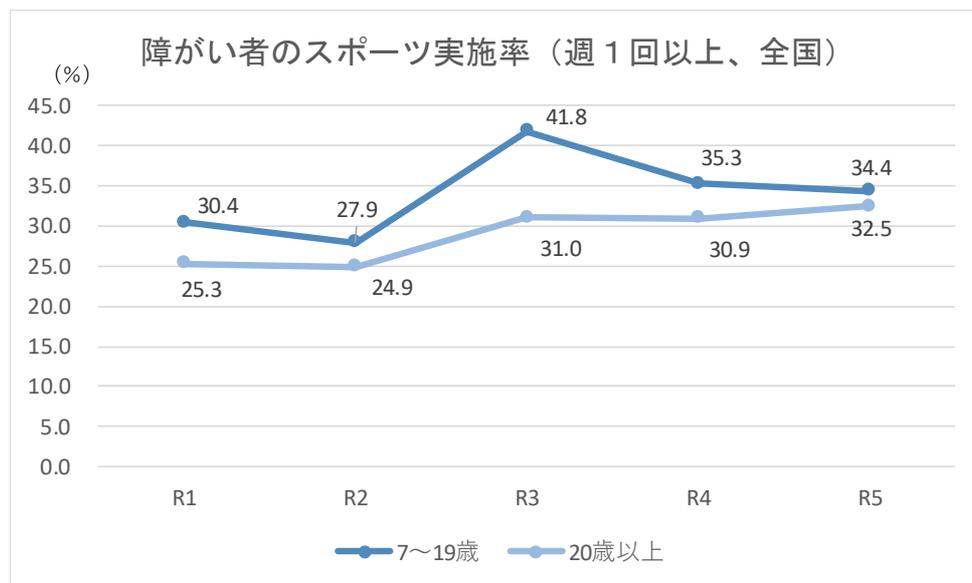
性別や障がいの有無等に関わらず、誰もがスポーツに親しむことができる環境を整備することにより、スポーツを通じた共生社会の実現を目指すとともに、スポーツを活用した交流の促進等により、地域の活性化を図ります。

<施策展開の方向>

(1) スポーツを通じた誰もが参画できる共生社会の実現

【現状と課題】

- 全国の障がい者のスポーツ実施率（週1回以上、令和5年度）は、7～19歳は34.4%、20歳以上は32.5%にとどまっており、引き続き、障がい者がスポーツを実施しやすい機会の提供や環境の整備を進めていく必要があります。

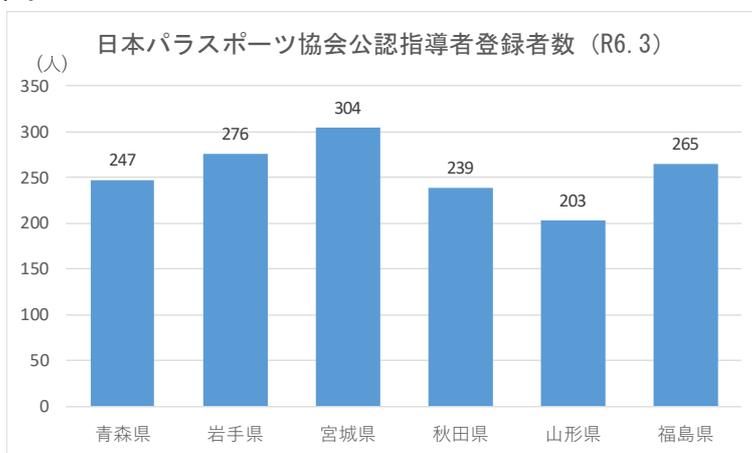


出典：スポーツ庁

- ・ R1～R3 「障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究」
- ・ R4 「障害児・者のスポーツライフに関する調査研究」
- ・ R5 「障害児・者のスポーツライフ調査」

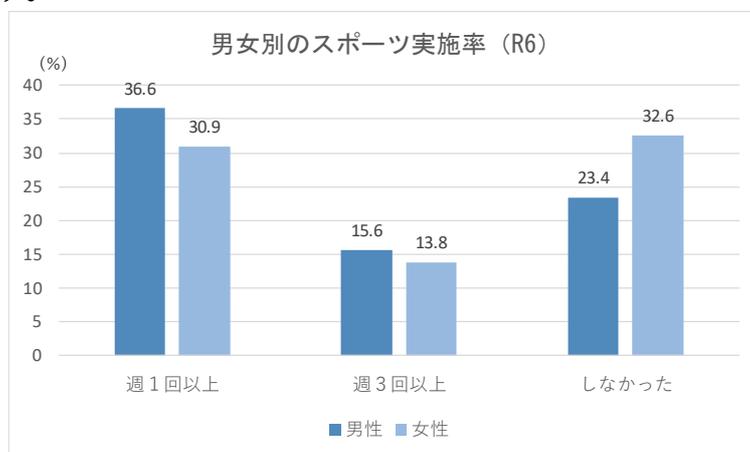
- 本県では、毎年、障がい者スポーツ大会（競技大会、レクリエーション大会）や障がい者スポーツ教室・障がい者スポーツ出前教室等を開催し、障がい者スポーツの普及や選手の発掘・育成、障がい者スポーツに対する県民全体の機運醸成・理解促進を目指した取組みを行っています。

- 本県の日本パラスポーツ協会公認指導者登録者数¹⁷は令和6年3月現在で203名となっており、障がい者のスポーツ参加を支援する人材の確保・育成を行う必要があります。



出典：(公財) 日本パラスポーツ協会 HP

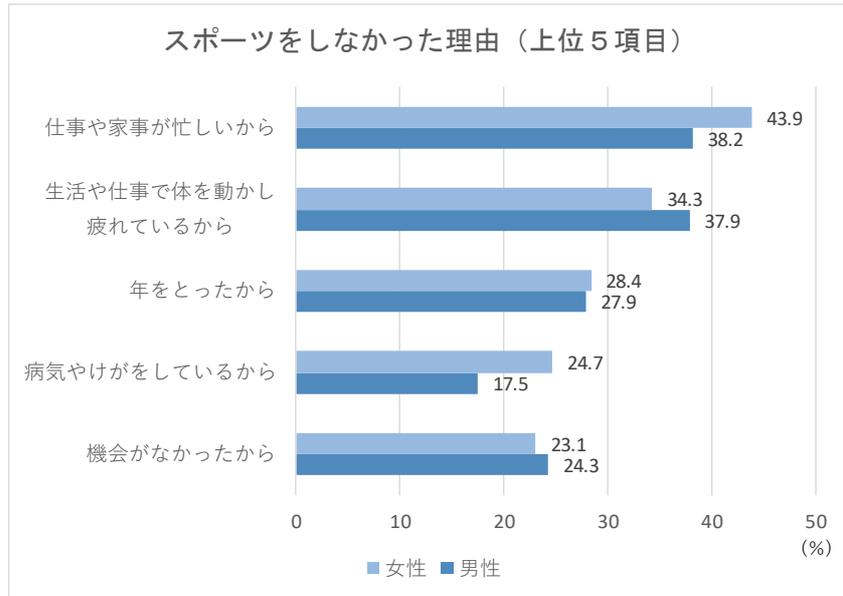
- 本県の女性のスポーツ実施率（令和6年度）は、週1回以上30.9%（男性36.6%）、週3回以上13.8%（男性15.6%）となっており、いずれも男性を下回っている状況です。また、「スポーツや運動をしなかった」割合は32.6%で、男性の23.4%を上回っており、女性のスポーツ実施率の向上を目指す取組みの推進が必要です。



出典：令和6年度「山形県県政アンケート調査」

- 本県の女性のスポーツを実施しない理由は、「仕事や家事が忙しいから」が43.9%で最も割合が高く、男性の割合を上回っています。ニーズを踏まえながら、女性のスポーツを実施する意欲を高めるための取組みやスポーツをしやすい環境の整備等を行う必要があります。

¹⁷ スポーツ指導員(上級、中級、初級)、スポーツコーチ、スポーツ医及びスポーツトレーナーの合計。



出典：令和6年度「山形県県政アンケート調査」

<施策>

① 障がい者スポーツの推進

- ア 障がいのある人が取り組みやすいスポーツの普及を図り、関係団体等と連携しながら、障がい者スポーツの裾野を広げる取組みを進めます。
- イ 障がい者スポーツに対する県民の理解を深めるため、障がいのある人とない人の交流を推進します。
- ウ 特別支援学校において、パラスポーツを教育活動等に採り入れるなどして、個々の障がいの実態に合わせ、スポーツに取り組む機会の充実を図るとともに、東北・全国の体育大会出場を支援し、特別支援学校における体育・スポーツの一層の振興を図ります。
- エ 障がい者スポーツ大会（競技大会・レクリエーション大会）の開催や、全国障害者スポーツ大会への県選手団派遣等について支援するとともに、指導者や各種大会の開催をサポートするボランティア等、障がい者スポーツを支える人材の育成・確保に努めます。
- オ 公共スポーツ施設において、障がい者を含む全ての県民が楽しく安全にスポーツ活動ができるよう、ユニバーサルデザイン化を進めます。

[主な取組みの例]

- 障がい者スポーツ出前教室の開催や障がい者スポーツ普及推進員の配置による障がい者スポーツの普及・振興
- 障がいの有無に関わらず参加できる障がい者スポーツ教室やパラスポーツ

交流会の開催等による障がい者スポーツの普及啓発・理解促進



障がい者スポーツ教室（ボッチャ）



パラスポーツ交流会（ゴールボール）

- 関係団体等と連携した県民に対する障がい者スポーツの情報発信
- 障がい者スポーツの普及・指導を担う障がい者スポーツ指導員等の育成
- 障がい者スポーツ大会（競技大会・レクリエーション大会）の開催



障がい者スポーツ大会（レクリエーション大会）

- 県スポーツ・レクリエーション祭における障がい者が参加しやすい競技等の検討
- 全国障害者スポーツ大会や全国・東北特別支援学校体育大会への選手派遣に対する支援
- 体育科・保健体育科、特別活動及び生活単元学習等の計画へのパラスポーツの積極的な採用並びに特別支援学校へのパラスポーツ用具の配備
- 障がい者スポーツボランティアバンク制度によるボランティアの募集及び活動の実施（再掲）
- ユニバーサルデザインの考え方に配慮した施設更新等の実施

② スポーツにおける女性の活躍推進・ジェンダー平等の実現

ア 総合型クラブ等のスポーツ団体と連携し、ニーズを踏まえたスポーツ機会の提供や、イベント時の託児所の設置など、スポーツに参画しやすい環境の整備に努めます。

イ 常設の女性のスポーツ相談窓口により、スポーツハラスメントや女性アスリート特有の疾病等についての相談を受け付け、競技団体や医療機関等の関係者と連携して状況の改善に向けた働きかけへの一層の支援を行います。

[主な取組みの例]

- 総合型クラブの教室や県スポーツ・レクリエーション祭における女性が参加しやすい種目等の検討



県スポーツ・レクリエーション祭

(左：バウンドテニス、上：女子ソフトボール)

- 女性アスリートを対象とした相談窓口の設置・運営（再掲）
- スポーツハラスメントの根絶に向けた研修会の開催（再掲）

<施策展開の方向>

(2) スポーツを通じた交流人口・関係人口の拡大、地域活性化の推進

【現状と課題】

- 本県では、平成30年10月に「山形県スポーツコミッション¹⁸」を設立し、令和6年4月現在、県、市町村、スポーツ団体、経済団体等100団体が会員となっています。スポーツコミッションでは、県外からのスポーツイベント、合宿の誘致活動や県内のスポーツ施設等の情報発信など、スポーツによる交流拡大・地域活性化のため、関係者が一体となった取組みを推進しています。



スポーツコミッションによるイベント

- 本県には、サッカー、バスケットボール、バレーボールのプロリーグに所属するスポーツチームや全国で活躍する企業スポーツチームがあります。これらの地域に根差したスポーツチームの活躍は、県民に勇気や元気を与え、地域の絆や誇りを育むとともに、本県の活力を全国に発信しています。



モンテディオ山形のホームゲーム

- 令和6年2月に開催した「やまがた雪未来国スポ」においては、県内外から2万人を超える選手・観覧者等が競技地等を訪れ、県内に大きな経済効果をもたらしました。県内の地域活性化等を図るため、引き続き関係団体等と連携しながら、全国規模の大会等の誘致・開催を検討する必要があります。

¹⁸ 国内外からのスポーツ大会、合宿等の誘致や受入支援、スポーツ施設・スポーツ大会に関する情報や文化・観光資源に関する情報の発信を行い、地域の資源を活かしたスポーツツーリズム等スポーツを核にした交流による地域活性化を図るため設立した団体。

- プロスポーツの観戦・応援や、本県の豊かな自然等を活かしたスキーやサイクリングなどアクティビティとしてのスポーツなども本県の観光コンテンツの一つです。これらを活用し、「スポーツツーリズム」として、国内外から人を呼び込むとともに、まちづくりや地域活性化につなげていくことを検討する必要があります。



本県の自然を活かした観光コンテンツ

- スポーツは、世界共通の人類の文化である（「スポーツ基本法」前文）とともに、文化としての身体活動を意味する広い概念である（「第3期スポーツ基本計画」）ことから、身体運動文化であるスポーツの地域資源としての活用を検討していく必要があります。
- アスリートの県内回帰・定着に向けては、「山形県企業スポーツ振興協議会¹⁹」や関係団体等と連携してアスリートのニーズを把握するとともに、本県の競技スポーツや地域スポーツの推進のため、県内でスポーツ選手や指導者として活躍できるための取組みを進めていく必要があります。

<施策>

① プロスポーツチーム等との連携

- ア プロスポーツチーム等の活動を支援するとともに、プロスポーツチーム等と連携し、県民が観戦する機会や選手との交流機会をより一層創出します。
- イ 地域住民がホームゲーム開催時などに行う地域の魅力発信活動や交流活動、賑わい創出事業等に対し支援します。

[主な取組みの例]

- プロスポーツチーム等の選手が行う地域貢献活動への支援

¹⁹ 「べにばな国体」を契機に盛んになった企業のスポーツ活動の輪を広げ、今後、さらに普及振興と相互の連携を図り、併せて本県スポーツ界の活性化と競技力の向上に資することを目的とし、平成6年8月に設立。令和6年4月現在42社が会員となっている。

- プロスポーツチーム等の応援やスポーツ教室の開催に係る経費への補助
- 山形県スポーツ振興 21 世紀協会が行う市町村応援デー等への支援

② スポーツイベントの開催・スポーツツーリズム等を通じた交流の拡大や地域づくりの推進

ア 山形県スポーツコミッションにおいて、県、市町村、競技団体、観光団体、企業等が一体となってスポーツに関する情報を発信するとともに、スポーツ合宿やイベントの誘致を推進します。

イ 各種スポーツイベント等について、規模や内容等に応じた広報媒体の活用により、効果的な情報発信、周知を図ります。

ウ 国内外から参加者を募る大規模な大会の開催などスポーツを通じた交流人口の拡大・地域活性化に向けた取組みを支援します。



鶴岡市で開催された「国際バドミントン U16 庄内」

エ 広く県民のスポーツへの関心を高め、スポーツの振興や地域の活性化を図るため、全国規模の大会の誘致・開催を検討します。

オ 本県が持つスポーツに係る観光コンテンツを活用し、「スポーツツーリズム」として旅行者の多様なニーズに対応できる観光誘客を進めます。

カ アスリートの県内定着・回帰の促進に向けて、県企業スポーツ振興協議会や県スポーツ協会と連携し、県内企業の情報提供を行うとともに、県内に就職したアスリートが、社会人選手や指導者等の本県スポーツを支える人材として活躍できる場の拡充を図ります。

[主な取組みの例]

- 山形県スポーツコミッションによるスポーツ施設や宿泊施設等の情報提供及び合宿支援のための相談窓口の設置
- 県スポーツコミッションと連携した県内へのスポーツ大会及び合宿の誘致
- 市町村と連携した県内で合宿を行うスポーツチームへの支援

➤ スポーツ合宿を行う団体と地域住民との交流の支援



本県で合宿を行った大学野球部



合宿団体と地域住民との交流（写真提供：上山市）

- 県公報誌及び県公式 SNS、山形県スポーツコミッション公式 SNS 等を用いたイベントの開催等の情報発信、周知
- 国内外から参加する交流事業、大会に対する支援
- 日本スポーツマスターズの誘致・開催の検討
- スポーツ資源を活用した新たな観光コンテンツの造成促進



武道（居合道）を活用した観光コンテンツ

- 評価委員会や競技団体ヒアリングの場におけるアスリート雇用を進めている企業等の情報共有
- 企業スポーツ振興協議会における講演会等や会報誌発行による選手活躍事例の紹介等による情報共有
- 県内回帰アンケートの実施及び分析結果の活用

③ 地域のスポーツ資源を活用した地域スポーツの推進

ア 関係団体等と連携し、本県の特徴である冬季スポーツやレクリエーション等、豊かな自然環境と地域の特性を活かしたスポーツを楽しむ機運の醸成など、地域性を活かしたスポーツの促進に努めます。

イ 地域スポーツにおける優れた人材を確保するため、企業や大学の公開講座や講習会等の開催、地域クラブ・企業・大学との連携・協働を促進します。

[主な取組みの例]

- 各学校における本県の特徴である冬季スポーツ（スキー等）の体育授業等の実施
- 総合型クラブにおける地域資源を活かした冬季スポーツやレクリエーション活動の実施の促進



総合型クラブにおける冬季レクリエーション活動

- 企業チームによるジュニア向けのクリニックやスポーツ教室の開催
- 山形県競技スポーツ強化推進プロジェクト会議等を通じた企業・大学との連携協働の推進
- 企業スポーツ振興協議会を通じた企業チームや選手への支援

「スポーツツーリズム」

本県には、豊かな自然環境を活かしたアクティビティなど、スポーツツーリズムの目玉となる様々な観光資源があります。例えば、広大な樹氷のパノラマの中スキーやスノーボードが楽しめる蔵王、春から夏にかけて新緑の中スキー体験ができる月山、さらにはカヌーやシーカヤック体験、トレッキングやサイクリングなどにより雄大な自然を感じることができます。また、「スポーツ」を広く身体活動と捉えれば、居合道発祥の地で行われる居合道体験（武道ツーリズム）や出羽三山における山伏修行体験もスポーツツーリズムの1つと考えられます。



月山夏スキー



カヌー体験（写真提供：飯豊町）



トレッキング



居合道体験（写真提供：村山市）



山伏修行体験